

ビューポイント『糖尿病・内分泌内科を新設。早期発見・早期治療開始で合併症を予防』

糖尿病・内分泌内科 高橋 清彦 科長・小野 真佑子 医長

ビューポイント2

糖尿病・内分泌内科を新設。早期発見・早期治療開始で合併症を予防

函館中央病院

糖尿病はいまだに年々患者数が増加し続け、世界的にも予防対策と治療が大きな課題となっている疾患。函館中央病院（函館市）では今年、日本糖尿病学会専門医、日本内分泌学会専門医等の資格を有す医師2人を迎え、糖尿病・内分泌内科を新設した。同科を担当する小野真佑子医長と高橋清彦科長に、同科の診療体制や糖尿病治療の現状、新型コロナウイルスとの関連等についてお聞きした。



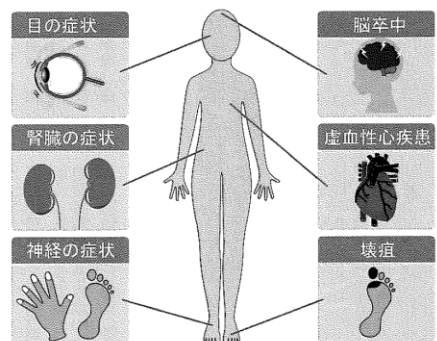
高橋清彦科長（左）と小野真佑子医長

糖値を上げる働きがある。このインスリンの作用不足が起ると、血糖中のブドウ糖をうまく処理できなくなり、血糖値の高い状態が続くようになる。この状態が放置されると、さらに糖尿病が進行し、さまざまな症状が現れるようになってしまふ。特に注意する必要があるのは、糖尿病の3大合併症だ。これは、糖尿病神経障害、糖尿病網膜症、糖尿病腎症を指し、発症した場合はQOLを著しく損ねる可能性がある（表1）。

国内の糖尿病患者数は約1000万人、予備軍を含めれば2000万人にも及ぶといわれている。同病院では従来から糖尿病患者さんの診療を行ってきたが、より専門的な治療を提供していくこと、今年4月に小野医長、7月に高橋科長が着任し、糖尿病・内分泌内科で診療を行っていた。同科では、1型糖尿病、2型糖尿病の他、妊娠糖尿病の診断・治療や糖尿病教育入院も実施している。

糖尿病で特に問題となるのが、2型糖尿病だ。最も患者さんが多いタイプの糖尿病で、体質（遺伝）だけでなく、環境的要素に伴う生活習慣の悪化に伴い、インスリンの分泌量やインスリンの効き具合が低下し、血糖が正常より高まってしまふ状態。

糖尿病の合併症



す。健診で指摘された場合はもちろん、おかしいなと思うことがあれば、早めに医師に相談することが大切です（高橋科長）。

急速に進化した糖尿病の薬物療法

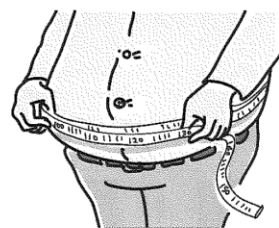
前述したように、糖尿病は生活習慣が背景となることが多いため、まずはその改善が、努めることが予防の第一歩となる。「日々の食事内容や量を工夫して頂き、食後に適度な運動を行う習慣をつけて頂く食事」とは限りません。不安がある場合は気軽に糖尿病の専門医に相談することです（小野医長）。

血糖値を安定させ、重症化対策を

糖尿病と新型コロナウイルスの関連はどうか考えればよいのか。「新型コロナウイルスも感染症の1つですから、血糖値が高い状態で罹患すると、重症化しやすいと考えられます。しっかりと血糖をコントロールしていただければ、新型コロナウイルスの感染リスクは低減される可能性があります（小野医長）。

今後は肥満治療にも力を入れる方針

なお、同病院の糖尿病・内分泌内科では、内分泌疾患の診療にも力を入れており、下垂体疾患（クッシング病、先端巨大症、プロラクチノーマ、下垂体炎、下垂体前葉機能低下症、尿崩症等）や甲状腺疾患（パセドウ病、橋本病等）、副甲状腺疾患（原発性副甲状腺機能亢進症等）、腎臓疾患（インスリン抵抗性、副腎疾患（クッシング症候群、褐色細胞腫、原発性アルドステロン症、非機能性腫瘍）といった



今後は肥満治療にも力を入れる方針

今後は肥満治療にも力を入れる方針。BMI25以上の方で、体重を減らしたいと考えている場合は「相談ください」と高橋科長は呼び掛けている。